2021
6
June
No.226

JA とまこまい広域

燦々

SANSAN
光り輝く

新嘗祭献穀「御田植祭」

11年ぶりに天皇陛下へ献穀

特集 新嘗祭献穀へ向け「御田植祭」執り行う

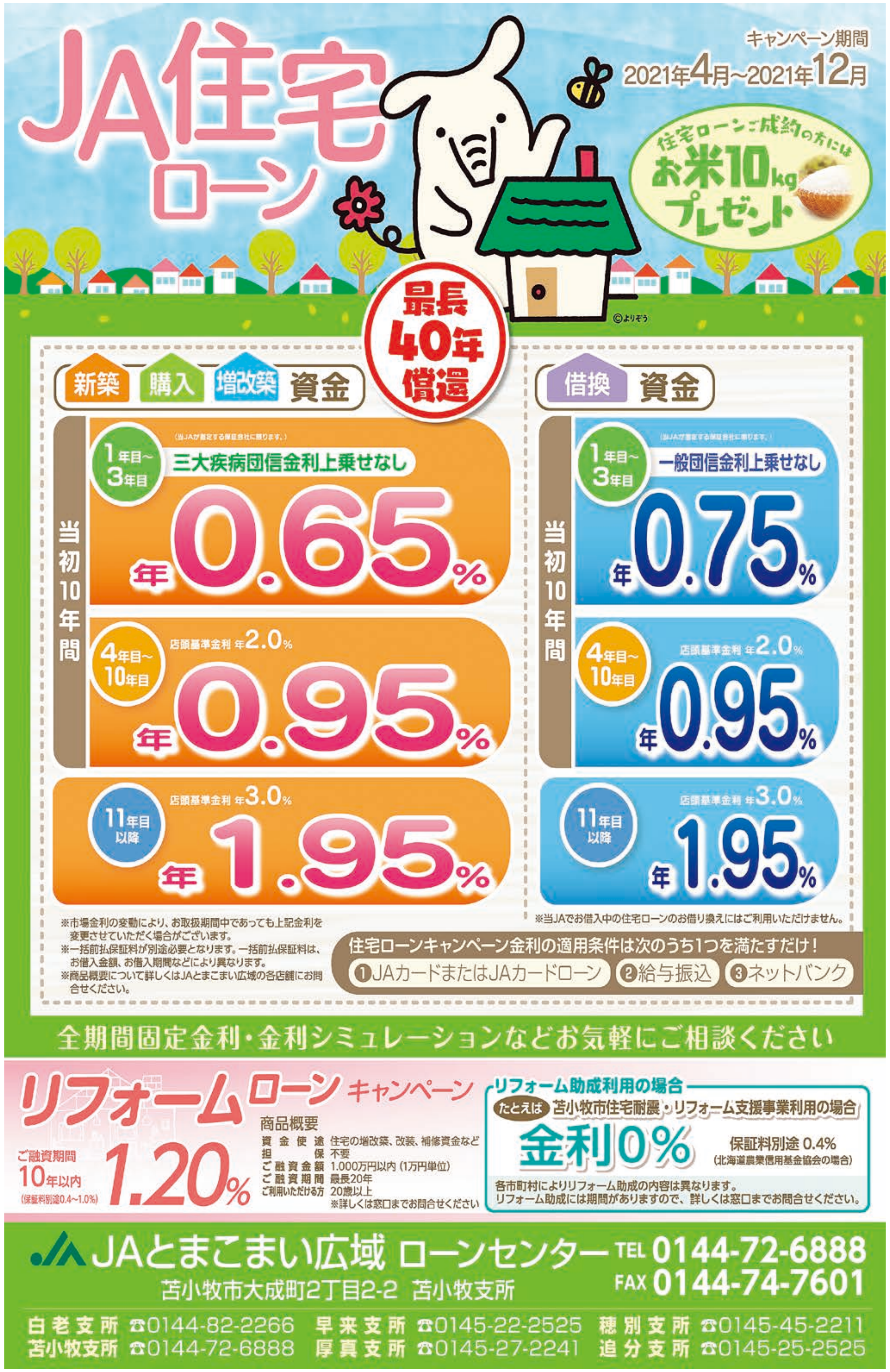
JAとまこまい広域広報誌
燦々～光り輝く～
No.226

JAとまこまい広域

■編集・発行■
〒059-1693
北海道勇払郡厚真町錦町10番地2
JAとまこまい広域本所
TEL 0145-27-2241 FAX 0145-27-3941

令和3年6月10日
ホームページアドレス http://www.ja-tomakomaikouiki.com
メールアドレス info@ja-tomakomaikouiki.com

■印刷■ 株式会社 須田製版



11年ぶりに天皇陛下へ献穀
新嘗祭献穀へ向け『御田植祭』執り行う

笑顔の早乙女たち
（手前から 塚本職員、鹿野職員、中塚職員、毛利職員）

胆振管内の厚真町では5月25日、新嘗祭へ献上する献穀米の「御田植祭」が厚真町東和の畑嶋賢蔵さんの水田で執り行われ、関係者ら約50名が参加し出来秋に期待を寄せた。平成22年にも厚真町富里地区の石井勉さんの水田で実施され今回で11年ぶり6回目をかぞえ、厚真町では明治・昭和・平成・令和にかけて4つの元号で行われたことになる。新嘗祭とは、天皇陛下が新嘉殿において全国各地から献上された新穀を、皇祖はじめ神前に供え天皇陛下自らも新穀を食べることでその年の収穫に感謝する祭典で、宮中恒例祭典の中で最も重要なものとされている。

御田植祭当日は朝方から降り続いた雨が上がるも曇天が続く中、水田の脇に設けた祭壇で令和3年新嘗祭献穀「御田植祭」が執り行われた。御田植の儀では耕作長の畑嶋さんが清められた斎田へ鍬入れをしたほか、田長の宮田広幸組合長から宮坂尚市朗厚真町長をはじめ、各関係団体関係者や早乙女らへ清められた早苗が手渡され、それぞれ手植えされた。御田植の儀が納められ神事が終了した。今回斎田が設けられたのは、平成30年に発生した北海道胆振東部地震で導水管が破損し、修繕のため2年間田植えが出来ずにいた水田が復旧し選定された。

田長の宮田組合長は「現在、震災による被害の復旧作業が進んでおりますが、この御田植祭を機に水田の完全復興のシンボルとなればと思います」とあいさつした。

献穀者の畑嶋さんは「まだ1つ目を終えたという気持ちで、これから管理を徹底し出来秋を迎え天皇陛下へお持ちできたらと思う」と意気込みを語った。

畑嶋さんは今年、水稲31ha（内訳 ゆめぴりか23ha・ななつぼし7ha・えみまる1ha）、麦2ha、大豆2ha、ブロッコリー1ha、緑肥2ha、導水管工事による未作付け7ha、合計45haに作付けを予定する。

▲御田植の儀で手植えする関係者たち

▲復旧された山腹を前に実施された「御田植祭」（厚真町提供）

燦々 SANSAN 光り輝く

No.226 CONTENTS

01 特集 11年ぶりに天皇陛下へ献穀
新嘗祭献穀へ向け「御田植祭」執り行う
03 カメラレポート
07 春の叙勲 浅野元組合長 菊地元組合長がダブル受章
09 理事会報告
10 期待の農力 山城知哉さん
11 ワンポイント営農情報
12 あぐり講座
13 JAからのお知らせ
14 JAグループ通信

令和3年度の新嘗祭へ献穀される「御田植祭（田植えを行う神事）」が5月25日、厚真町東和地区の畑嶋賢蔵さんの水田で執り行われ、耕作者の畑嶋さんと早乙女（左から、塚本職員、鹿野職員、毛利職員、中塚職員）の4名で看板の前で撮影した1枚。

地域の話題をパチリと

カメラレポート

広域

ほうれん草選果が始動

東いぶり広域ほうれん草出荷へ

　JAとまこまい広域は5月6日から、ほうれん草の選果を開始した。当JAとJAむかわからなる東いぶり広域は、同基準のもと両JAの施設でそれぞれ共選作業が行われる。平成5年から東いぶり広域ほうれん草としてブランド化を図り、販売力強化に努めている。

　当JAの共選作業は、広域管内（JAとまこまい広域ほうれん草部会加入者に限る）の原料が厚真町の上野地区にある施設へ集約され選果される。初日は、6件の生産者の原料118コンテナが選果され、168ケース（1ケース／3・4kg）を出荷した。今年は3月の気温が高く生育は前進傾向であったが、4月に入り天候不良が続いたため生育は停滞。例年並みの生育推移で落ち着いた。市場へ出荷されたほうれん草は、例年よりやや高値で取り引きされた。当JA広域ほうれん草部会では31件の生産者で9・8haが作付けされ、約71・2tの出荷計画が組まれる。徐々に出荷量は増加し、田植えが終わる6月上旬頃から出荷最盛期を迎えた。

▲選果作業の様子

▲段ボールへの詰込み作業

広域

もぎたて市通期販売開始

陳列と同時にお客様で賑わう

　JAとまこまい広域もぎたて市部会の通期販売が5月21日から始まり、苫小牧市内3か所のホクレンショップ（沼ノ端店・苫小牧店・しらかば店）及び、北広島市にあるホクレンくるるの杜へ旬な採れたて野菜が届けられた。

　店頭に生産者直送のふきやキャベツ、レタス等が陳列されるやいなや、新鮮野菜を待ちわびたお客様で販売ブースは賑わいとなり、特に道内産が旬となるアスパラガスの陳列棚には人気が集中していた。

▲お客様で賑わうもぎたて市ブース

▲生産者より受け入れした商品（ホワイトアスパラ）

　ホクレンショップの担当者は「今年は昨年と違い巣ごもり需要が減少し、売り上げが伸び悩んでいるが、もぎたて市の新鮮野菜販売に力を入れて盛り返していきたい」と意気込みを話してくれた。もぎたて市ブースには買い物客の目を引くようにのぼりが飾られ、他の商品との差別化を図りその力の入れ様がうかがえる。

　JAとまこまい広域もぎたて市部会の商品お買い求め先は、前述のホクレンショップとくるるの杜の他に、Aコープ厚真店の「もぎたて市コーナー」でも取り扱われており、10月下旬まで販売を予定している。

広域

大豆播種はじまる

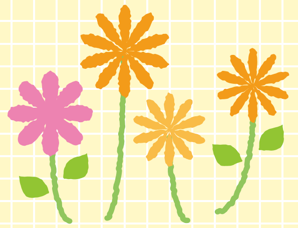
日西大介さん圃場では、2・4haに播種

　JAとまこまい広域管内では5月10日頃から各地区で大豆の播種作業がスタートした。厚真地区の日西大介さん圃場では大豆播種機で2・4haの畑に、13日～14日の2日間をかけて品種「ユキホマレ」を播種した。14日は好天に恵まれ、春先から続いていた強風も穏やかな陽気で作業は順調に進んだ。

▲播種作業を行う大介さんと、父の善博さん

　当JA管内では5月25日～6月1日にかけて大豆播種作業のピークを迎え、収穫は10月中旬から始まる予定だ。収穫された大豆は厚真町上野地区のライスセンターに受入れされ、大豆に含まれる水分量ごとの貯留庫に一時保管される。随時15％以下まで水分調整が行われ、ふるい分けや比重選別、色彩選別にかけられフレコン又は紙袋に詰めホクレンなどへ販売される。

　今年の大豆の作付けは、当JA管内では1,006haが作付けされ約1,983tの受入れを見込んでいる。



早来

適正な処理へ向けて

第1回早来地区廃プラ一括回収

　5月19日、安平町遠浅の早来米麦乾燥調製施設横にて安平町早来農業用廃プラスチック適正処理対策協議会による廃プラ一括回収が行われた。

　今回は48戸から、農業用ビニール・農業用ポリで30,500kgの回収となり前年より9,000kg多い回収となった。

　廃プラスチックの不法投棄、野焼きは廃棄物の処理及び清掃に関する法律第十六条の二において禁止されており違反すると5年以下の懲役、若しくは1,000万円以下の罰金または、その両方が科せられる。法人の場合は3億円以下の罰金が科せられる。

　また、環境汚染にも繋がるため、農業者の方々には適正処理への意識と関心をさらに高めて頂きたい。

　安平町早来農業用廃プラスチック適正処理対策協議会での廃プラ一括回収は、7月中旬に2回目の回収、11月中旬に3回目の回収を予定している。

▲廃プラ回収の様子①

▲廃プラ回収の様子②

地域の話題をパチリと

カメラレポート

追分

追分アサヒメロン初出荷・初競り
【過去最高 一箱22万円】

5月7日、安平町追分地区特産のアサヒメロンが今年も初出荷を迎えた。

今年最初の出荷となったのは、新井真人さん、林出一樹さんの2名。昨年より1日遅い初出荷となり、出荷数は45箱となった。「4月は朝晩の冷え込みが厳しく温度管理が難しかったが、満足できるメロンができた」と出荷した2名は笑顔を見せた。

出荷同日、追分野菜集出荷場では初出荷セレモニーが行われ、綺麗にネットが張られたメロンの姿が町をはじめ、市場、JA、普及センター等の関係者や報道陣にお披露目された。セレモニーで追分アサヒメロン組合の安井貴志組合長は「悪天候の中、素晴らしいメロンが出荷された。新型コロナウイルスの影響が不安だが、生産者と各関係機関の方々で一丸となり、消費者の方に安心・安全を届けるため努力していきたい」と挨拶し、セレモニー後、早速翌日の初競りに向けてアサヒメロンの共選作業が始まった。

▲共選作業で検品の様子

翌8日、札幌みらい中央青果で行われた初競りでは、競り開始前からアサヒメロンの周りに人だかりができていた。最高値は一箱22万円（秀品5玉入り）と過去最高の高値がつき、今回出荷された45箱合計で、およそ146万7千円（税込み）と幸先の良いスタートとなった。

同組合では今年25戸と実践農場1戸で26haを栽培し、10月下旬頃までに5万8千ケースを出荷する予定。売り上げは2億3千2百万円を目指す。

▲札幌みらい中央青果でのセリの様子

厚真

田植え始動
出来秋に期待

JAとまこまい広域では5月10日、厚真町幌内の木戸正人さんが先陣を切って田植えをスタートさせた。早朝から降雨と曇りを繰り返すあいにくの天気で一時田植えを中止する場面もあったが、徐々に天候は回復。大きなトラブルもなく初日の作業を終えた。

木戸さんは稚苗での育苗方法を採用しており4月15日に種もみを播種。約1カ月間をかけ約10㎝まで生育させ田植えを開始した。木戸さんは「今年は夜温が低く被覆をしての管理となり、例年より発芽が3日～4日ほど遅かったのに加え、強風でハウスの開け閉めなど温度管理に苦労した」と気象条件による管理の難しさを話してくれた。

「苗半作」という言葉があるように、天候不順などにおいても安定した収量を確保する上で、育苗管理の徹底された健全な苗作りはとても重要であり、毎年この時期に生産者は神経を尖らせて管理を行っている。

当JA管内では、270戸の生産者で2,295haの作付けを予定し、約11,300tの収穫を計画している。

※記載数値は、当JA出荷分及び主食用米のデータ

▲管内では最初となる田植えをする木戸さん

穂別

広域産のおいしい南瓜に向けて
南瓜定植作業開始

5月7日より、むかわ町穂別地区の主要農産物である「南瓜」の定植作業が始まった。

JAとまこまい広域南瓜生産部会穂別支部（清瀬利一支部長）では、生産者73戸が作付約280ha、生産量4,100t、販売高434,750千円を計画している。

今年は5月に入っても気温が3月下旬並みに下がる日もある中、春先から大切に育てた苗を豊穣の秋を願いながら次々に植えていった。

▲定植された南瓜の苗

▲石崎浩一さんの定植作業の様子

▲森山幸治さんの定植作業の様子

▲トンネルが掛けられた圃場

この時期の南瓜はトンネル栽培を行っており、トンネルを使わない露地栽培よりも約1ヶ月早く定植を始めることができるため、7月下旬には収穫が始まり、8月上旬より出荷される予定だ。

生産者からは「暖かい日は急がないが今日みたいに寒い日は夕方までにトンネルを掛けなければならない」と話す。また消費者に向けて「コロナに負けないで広域産のおいしい南瓜を待っていて欲しい」と話した。

穂別

生育状況など確認
カンロ圃場巡回実施

5月20日、むかわ町穂別地区のオリジナルブランド、ほべつカンロ「ともりん」の圃場巡回を実施した。

穂別カンロ生産部会（小林朋導部会長）では、生産者19戸が約52haを作付けしている。6月上旬から始まる出荷にむけて品質統一を図ることを目的に、小林朋導部会長と当JAの担当者が生産者のハウスを1棟ずつ巡回し、生育状況の確認や今後の気温の推移など情報共有を図った。また、アブラムシやアザミウマなど毎年発生が見られる病害虫の発生が起きていないか、確認が行われた。

▲生育を観察している様子

▲質問に答えている様子

▲収穫を待つカンロ

小林朋導部会長は「今年は昨年に比べて日照不足だが、生育は順調だ。今後の温度管理も体調に気をつけて引き続き頑張ってほしい」と話し、生産者から挙がる質問に一つ一つ丁寧に答えていた。

春の叙勲 浅野元組合長 菊地元組合長がダブル受章

政府は4月29日付けで春の叙勲受章者を発表し、とまこまい広域農業協同組合初代組合長の浅野勝善氏が旭日単光章、同じく2代目組合長の菊地弘氏が瑞宝単光章をそれぞれ受章した。

旭日単光章に浅野勝善氏

・生い立ち

昭和16年に厚真町宇隆に稲作農家の長男として出生。

昭和32年に北海道庁立農業研修所（現在の北海道立農業大学校）を卒業後実家の稲作農業に従事。

昭和61年から旧厚真町農業協同組合の役員を務め、平成10年には代表理事組合長に就任。また平成13年には1市5町の合併によりとまこまい広域農業協同組合が発足し、初代代表理事組合長に就任。

・受章概要

平成10年に組合長に就任した当時、新食糧法に移行し良質米生産を推進する一方でロットの集約が課題となっていた、厚真町・安平町・むかわ町の胆振東部3町で生産された高品質米を厳しい基準で選別したブランド米「たんとうまい（胆東米）」を誕生させるとともに、厚真町における1万トン規模のカントリーエレベーター（たんとうまいステーション）の建設に尽力した。

平成12年には胆振東部7農協の合併推進委員長として、不良債権や財務問題等の山積みの課題を乗り越え、平成13年2月に胆振東部6農協（白老町、苫小牧市、早来町、追分町、厚真町、穂別町）で構成された「とまこまい広域農業協同組合」が発足し、初代代表理事組合長に就任した。発足後も不良債権処理や財務の健全化に取り組み、組織の経営基盤の安定化に尽力した。広域合併の実現に漕ぎつけ、合併後の組織整備を強化し安定的な農協経営が確立され、地域農業や組合員の経営安定に大きく貢献した。

・受章コメント

北海道胆振東部地震では多くの方々が被害に遭い、多くの尊い命が厚真町では失われてしまった。見た目には復興を遂げる一方で、いまだに癒えぬ傷に苦しんでいる人たちがいる中で、この受章を手放しで喜べる状況ではない。しかし、現JAとまこまい広域の合併（1市5町による合併）等、将来に対しての頑張りが認められ、組合員・JA職員・行政職員等、皆さまの後押しに感謝し、皆さんを代表して拝受することとした。今後のJAにおいては今一度、組織活動を活性化し、さらに前進させて欲しい。

・来　　歴

平成10年	旧厚真町農業協同組合代表理事組合長
平成13年	日胆管内農業協同組合会副会長
平成13年	とまこまい広域農業協同組合代表理事組合長（合併により）
平成14年	日胆地区農協酪農・畜産対策委員会委員長
平成14年	（社）北海道農業改良普及協議会理事
平成20年	ホクレン農業協同組合連合会理事

・主な褒章・表彰

平成18年	北海道産業貢献賞（農業協同組合功労者）
平成20年	北海道農協中央会功労者表彰
平成23年	全中会長感謝状
平成23年	厚真町自治功労賞

瑞宝単光章に菊地弘氏

・生い立ち

昭和38年に国立帯広畜産大学酪農学科を卒業し現在まで酪農業に従事。

調査関連では、昭和45年から令和2年まで国勢調査員として10回にわたり調査員を務めた。その他にも、昭和45年から平成2年まで農林業センサスの調査員にも任命され、5回にわたり調査員として従事。昭和46年から平成11年まで北海道農業基本調査員として24回従事した。

行政関連では、昭和63年から旧早来町農業委員を務め、平成11年から平成14年まで会長に就任。また平成11年から旧早来町議会議員を4年間務めた。

農業関連では、昭和54年から旧早来町農業協同組合理事を務め、平成9年からは副組合長に就任。平成13年の1市5町にまたがる広域合併に伴い、とまこまい広域農業協同組合が発足し理事に就任。平成14年には理事専務。平成23年から平成26年にかけて2代目の代表理事組合長に就任。

・受章概要

昭和45年から令和2年まで国勢調査員として任命され以来、10回にわたり調査員を務めた。調査に当たっては、豊富な経験と知識を活かし正確かつ迅速に調査員として職務を遂行し、地域の方々に国勢調査の重要性・必要性について十分に説明を行い、意識の高揚を図る調査活動は、常に他の調査員の模範となるなど、調査に尽力し貢献した。

・受章コメント

50年にわたり国勢調査員として活動し昨年の調査で10回目を迎えた。長年地域で培った信頼関係に助けられ、回収率100%を達成することができた。この章は地域の皆さんに助けられ、地域の皆さんと一緒に拝受したと思っている。国政調査のデータは国の政策立案の基礎となるデータとなっているので、地方の状況をこのデータから読み解いてもらい、政治家の皆さんにはもう一度、地方活性化に一役を担って頂きたい。

・来　　歴

昭和54年	旧早来農業協同組合理事
昭和63年	早来町農業委員
平成 9年	旧早来農業協同組合副組合長
平成11年	早来町農業委員会会長
平成13年	とまこまい広域農業協同組合理事
平成14年	とまこまい広域農業協同組合代表理事専務
平成23年	とまこまい広域農業協同組合代表理事組合長

・主な褒章・表彰

昭和49年	統計功労者賞（北海道知事より）
昭和54年	統計功労者賞（北海道知事より）
平成元年	統計功労者賞（北海道知事より）
平成11年	統計功労者賞（北海道知事より）
平成28年	国勢調査功労者賞（総務大臣より）

理事会報告

令和3年5月11日(火)に総合営農センターで第5回理事会が開催され、次の事項について報告、協議、承認がされました。

報告事項

1. 一般報告と当面する諸行事について
2. 3月末財務報告について
3. 組合員の異動について
4. 固定資産の取得、処分について
5. 令和3年度給与改定について
6. 令和3年度職員研修大会開催について
7. 令和3年度共済推進要領について
8. 令和2年度4支所水田農業振興基金の決算について
9. 経営定期点検の結果について
10. 経営定期点検2年度改善事項の対応状況について
11. 女性参与設置要領の一部改正について
12. 北海道厚真福祉会への理事、評議員の推薦について

   ○理　事：兵頭　利彦 氏（前 宮西　純子 氏）

   ○評議員：宮西　純子 氏（前 浅野　勝善 氏）
13. 不祥事再発防止策の進捗状況について
14. 本所経営指導委員会報告について

協議事項

1. 第30回JA北海道大会組織討議について

付議事項

議案第１号　定期（決算）監査の回答について

議案第２号　行政庁に対する業務報告書の提出について

議案第３号　3年度ディスクロージャー誌策定について

議案第４号　職員就業規則の一部改正について

議案第５号　準職員就業規則の一部改正について

議案第６号　要対策組合員への貸付について

議案第７号　出資の減口と譲渡について

さんさん かがやく

期待の農力

農業の大変さを改めて実感

山城（やましろ）　知哉（ともや）さん（22歳）厚真町高丘

知哉さんは、苫小牧市内から約1時間をかけて通いながら農業に従事している。今年で就農して5年目の春を迎えた。現在は、水稲10・5ha、麦9・5ha、大豆9・1ha、ハスカップ0・3haの合計29・4haを3人で経営している。

就農のきっかけ

厚真高校を卒業後、祖父の正洋さんの後継ぎとして就農する。しかし高校を卒業する際、企業へ就職するか農業を継ぐか迷っていたという知哉さん。小さい頃から祖父の背中を追いかけ畑を駆け回っていたことを思い出し、農業の魅力を再認識したことで後継ぎとして就農する決意を固めた。

農業の大変さを改めて実感

就農して3年目の秋から知哉さんが主体となり農作業に従事し始めた。そんな矢先に震災が発生。農作物の収穫が出来ないことはおろか、翌年の作付けが出来ないほどまでに影響を受けた。この状況の中で「これからのことを考えると、しっかりと作業出来るか不安でこのまま営農を続けるか悩んだ」と当時の心境を話してくれた。また「まだ分からないことが多い中、近隣の農家にアドバイスをもらいながらも続けることが出来ているが、主体となって農作業に従事するようになった4年目は不安で本当に作物を育て収穫出来るのか心配だった」と続けて知哉さんは話してくれた。「少しずつではあるが作業に慣れ、農作物を収穫出来たときは農業のやりがいを感じる」と知哉さんは話す。

今後の目標

「まず早く1人前になりたい」と第一声。

知哉さんは「昨年は農薬など余分に購入しすぎてしまい経費がかかったため、今年は昨年を踏まえ経費削減しより良い経営をしたい」と話した。今後は水稲をメインに規模拡大していきたいと話す知哉さんの今後に期待したい。

さんさん
あぐり講座

胆振農業改良普及センター東胆振支所

飼料作物の分施について

はじめに

安定的に収量を得るには分施を行うことが重要です。飼料用とうもろこしと牧草(チモシー採草地)の分施について紹介します。

飼料用とうもろこしの分施

基肥量を抑えた場合や、は種後に長雨があった場合等は生育後期の肥料切れが発生する恐れがあるので、分施を確実に行いましょう。

・分施の時期について

7葉期までに行います(参考:当地域の葉数の平年値は6月15日で4.9枚)。

・施肥量について

標準施肥量(窒素18kg※)になるように、尿素や硫安で分施を行います。

例)基肥の窒素が10kg/10aの場合は、窒素8kg/10aの分施を行ってください(尿素であれば約17kg/10a)。

※北海道施肥ガイド2020から、当地域の窒素の基準量は15→18kg/10aに変更されてます。

牧草(チモシー採草地)の分施

植生の維持および収量の向上のために、適切な分施を行いましょう。

・施肥時期について

一番草刈取後5-10日に行います。

・施肥量について(土壌分析値がない場合)

1) 施肥標準量は土壌区分とマメ科率に応じて決まります(表1)。

2) 堆肥を散布した場合は土壌区分と散布量に応じて施肥標準量から減肥します(表2)。

3) 早春:一番草刈取後=2:1になるよう施肥を行います。

表1 チモシー採草地の施肥標準量

土壌区分	マメ科率	施肥標準量(kg/10a)		
		窒 素	リン酸	カ リ
火山性土	5-15%	10	8	18
	5%未満	16	〃	〃
低地土	5-15%	10	6	〃
	5%未満	16	〃	〃

(北海道施肥標準2020より)

表2 堆肥施用により供給される養分量

土壌区分	養分量(kg/現物t)		
	窒 素	リン酸	カ リ
火山性土	1	1	3
低地土	1	1	5

(北海道施肥標準2020より)

例)火山性土でマメ科率5-15%、堆肥を2t/10a散布した場合の肥料設計は下表の通りとなります(表3)。

表3 チモシー採草地の肥料設計例

	窒 素	リン酸	カ リ
施肥標準量(表1より)	10	8	18
減肥量(表2より)	2	2	6
年間施肥量	8	6	12
早春施肥量	5.3	4	8
一番草刈取後の追肥量	2.7	2	4

ワンポイント営農情報

pH改善がなぜ必要?

作物が育つ為に必要な条件

地上部 ・・・ 充分な光と炭酸ガス【光合成】、適度な温度。
地中部 ・・・ 適度な水分、充分な酸素、適度な養分、充分な有機質。

➡ 有害物質・病害虫の抑制

これらの条件を好適に保つ為には、土壌の善し悪しが重要。
⇒ 土壌分析で善し悪しを判断。

なぜpHを改良するの?

表1 知っておきたい作物別の好適pH

pH値	作 物 名
6.5~7.0	てん菜
	ほうれん草
6.0~6.5	ブロッコリー・とうもろこし・トマト
	大豆・小豆・アスパラ・白菜
	小麦・菊・カーネーション
	茄子・ピーマン・南瓜・メロン等
5.5~6.5	たまねぎ・小松菜・いちご・だいこん・キャベツ ゴボウ・人参等
5.5~6.0	そば・ニンニク
	馬鈴薯・長芋
4.8~5.5	ブルーベリー・ハスカップ

表2 土壌pH値と主な肥料要素の溶解・利用度

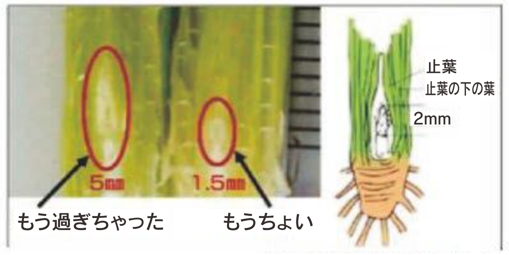
①表1のように、作物により好適なpHが異なる。
②肥料成分の作物への利用されやすさ・有害成分の溶解度は、pHの影響を大きく受ける。
(好適範囲以外では、過剰障害や、欠乏障害が発生する。)

生育過程でpHを改善する事は、出来ません。収穫後、土壌診断をしましょう!!

シリーズNO.18 おいしい米づくり

= 親茎の幼穂を確認して、適正な水管理を! =

例年6月末~7月頭は、親茎の生長点で葉っぱづくりが終り、穂の基が生れ始めます。親茎の穂の基(幼穂)が2mmになった時を幼穂形成期といい、その後の管理作業の大切な目安となります。



北海道農産協会資料より

(1)幼穂形成期から約10日間(前歴期間)は、花粉の耐冷性を高める時期です。徐々に入水を行い、10cm程度の深水とします。
ポイント1:日中の水温25℃以上が目標です。入水は夜間~早朝、日中止水です。
ポイント2:一気に深水にすると水温を下げてしまいます。急がずゆっくりと水深を深くします。
(2)親茎の止葉が見えてきたら(幼穂形成期から10日目頃)、最も寒さに弱い時期に入ります。止葉の伸びに合せてさらに入水し、止水が出来る上限まで深水としてください。
(3)止葉が出揃ったら(幼穂形成期から17日目頃)、一度落水し最低限水の入換えを行ってください。
(4)幼穂形成期から25日程度で出穂が始るので、病害虫防除計画の目安としてください。

~幼穂形成期からのケイ酸の働き~

ケイ酸は窒素の約10倍、稲に吸収されます。ケイ酸吸収量の多い稲は、幼穂形成期以降の茎葉のでん粉蓄積を高め、低温に強い稲に育ちます。また、成熟期茎葉のケイ酸/窒素率を高め、収量の向上やタンパク含有率の改善につながります。

ケイ酸の吸収は、基肥より追肥の方が吸収率が高く、基肥施用とともに、幼穂形成期1週間後の追肥(ケイ酸資材20kg/10a)が有効です。

JAグループ通信

JAグループ北海道 ✖ HOKKAIDO Consadole SAPPORO

鶏むね肉の北海道♪チーズロール

材料（2〜4人分）
- 「よつ葉北海道十勝100 3種のチーズ 贅沢モッツァレラブレンド」：50g
- 鶏むね肉（皮なし）：320〜350g
- アスパラ（細め）：3本
- 塩、コショウ：各少々
- オリーブオイル：適量
- イタリアンパセリ：お好みで

【トマトソース】
- ダイスカットトマト缶：1/2缶（200g）
- 玉ネギ：1/8個（25g）
- オリーブオイル：大さじ1
- コンソメ（顆粒）：小さじ1/2
- 塩：小さじ1/4
- 砂糖：小さじ1/4

作り方

❶「よつ葉北海道十勝100 3種のチーズ 贅沢モッツァレラブレンド」を使います。
❷耐熱ボウルに【トマトソース】の材料をすべて入れて混ぜ合わせ、ラップをせずに電子レンジ（600W）で4分加熱する。
❸❷の全体を混ぜ合わせ、再び3分加熱して盛り付け皿に移す。
❹アスパラを下ゆでして、15㎝程度の長さになるように下を切りそろえる。
❺鶏肉は皮がついていた面を下にして置き、切り込みを入れて両側の厚みを開き、観音開きにする。
❻❺に大きめに切ったラップをかぶせ、肉たたきやめん棒でたたいて厚さをそろえながら、18㎝四方の大きさに薄く伸ばす。
❼ラップを2枚重ねにして鶏肉よりも大きくしき、皮目を下にして乗せ、塩、コショウをする。
❽❹のアスパラと「よつ葉北海道十勝100 3種のチーズ 贅沢モッツァレラブレンド」を乗せる。
❾ラップごと手前からひと巻きし、中身が出ないように鶏肉の両端を少し内側に折りこむ。
❿のり巻きを作る要領で手前に戻しながら、ラップで包んでしっかりと巻く。両端のラップをねじる。
⓫巻き終わりを下にし、ねじった両端を入れ込んで耐熱皿に置く。電子レンジ（600W）で1分半、返してさらに1分半加熱する。
⓬ピンク色で火が通っていない部分があれば、その部分を下にして30秒程再加熱する。5分程置いて落ち着かせる。
⓭ラップをはずして1・5㎝幅に切り、❸のトマトソースの上にのせる。
⓮お好みでパセリを添え、さっとオリーブオイルをかけて完成。

レシピの特徴

チーズのなめらかさを楽しめるレシピです。調理はレンジにおまかせで簡単。パーティ映え抜群なので、おもてなし料理にもオススメです。

北海道コンサドーレ札幌の管理栄養士
小松先生のコメント

鶏むね肉からたんぱく質とビタミンB6、モッツァレラチーズからたんぱく質とビタミンB2、カルシウムを摂れるので、体づくりやリカバリーに使えるレシピです。試合や練習が早く終わった日の「リカバリーおやつ」や19時前の夕食に適しています。皆さんもぜひ、お試しください。

北海道コンサドーレ札幌選手寮

しまふく寮のレシピ紹介

北海道コンサドーレ札幌とJAグループ北海道は食農パートナーです！

Vol. 1

「レンジで！鶏むね肉の北海道♪チーズロール」

高嶺朋樹選手

北海道コンサドーレ札幌とJAグループ北海道は、相互連携協定を結び、食農教育・社会貢献活動を展開しています！

●コンサ・土（ド）・農園（ファーム）　●よい食JA親善大使

JAグループ北海道は、「コンサ・土（ド）・農園（ファーム）」や「よい食JA親善大使」を通じて、北海道コンサドーレ札幌とともに、食の重要性を幅広く発信しています。

JAグループ北海道

ＪＡ日誌

2021 6月

16日㊌	早来支所共済一斉推進～18日
17日㊍	厚真支所 農業まつり【豊穣祈願祭】
18日㊎	第5回企画会議
19日㊏	
20日㊐	
21日㊊	
22日㊋	内部監査【期中Ⅳ】（外部委託）～25日、系統連合会総会～23日（web）
23日㊌	厚真支所共済一斉推進～25日
24日㊍	
25日㊎	
26日㊏	
27日㊐	
28日㊊	
29日㊋	4地区専務会総会（札幌）
30日㊌	ホクレン乳牛市場、第1回地域振興検討委員会（予定）

2021 7月

1日㊍	試用期間解除辞令、ホクレン肉牛市場
2日㊎	第5回不祥事再発防止検討委員会
3日㊏	あびら夏・うまかまつり～4日（中止）
4日㊐	
5日㊊	みのり監査法人 期中Ⅰ監査～9日（予定）
6日㊋	
7日㊌	
8日㊍	
9日㊎	新札幌イオンまるごとほべつフェア～11日
10日㊏	広域ホルスタインショウ（中止）
11日㊐	メロン・ハスカップ販売促進（予約販売）
12日㊊	新任監事研修～15日（江別）、大卒採用試験（予定）
13日㊋	第6回企画会議
14日㊌	
15日㊍	

※新型コロナウイルスの影響により中止となる場合がありますのでご了承下さい。

クールビズ実施のお知らせ

JAとまこまい広域では、5月31日（月）よりクールビズを実施しております。期間中、職員は「ノーネクタイ、ノージャケット」等の軽装で業務を行いますのでご理解とご協力を宜しくお願い致します。

実施期間 5月31日（月）～9月30日（木）

人事異動

依願退職 お疲れ様でした

5月31日付け
金融部 **岸本　由唯** 平成29年4月1日入組
金融部融資課係を務め退職

お悔やみ

謹んでご冥福をお祈りいたします。

月日	地区	氏名	享年
4/27	むかわ町	紀藤　淑子さん	87
4/28	安平町	目黒　君枝さん	92
5/2	安平町	武田美智子さん	96
5/4	白老町	井澤キクエさん	101
5/16	厚真町	村井　澄子さん	79
5/19	厚真町	山家　一夫さん	86
5/19	厚真町	松永　民夫さん	74

ホクレン南北海道黒毛和種市場

広域農協支所別取引成績（5月）

令和3年5月7日

	性別	成立頭数(頭)	価格平均(円)	平均日齢/体重(kg)	平均kg/単価(円)
白老	去勢	19	734,526	1.166	2,159
	雌	18	758,944	1.101	2,310
苫小牧	去勢	4	736,250	1.194	2,159
	雌	4	577,500	0.974	2,050
早来	去勢	31	789,032	1.209	2,260
	雌	12	692,917	1.098	2,101
厚真	去勢	23	770,391	1.197	2,220
	雌	13	671,077	1.036	2,100
穂別	去勢	19	797,263	1.230	2,313
	雌	14	663,071	1.066	2,015
追分	去勢	3	787,667	1.219	2,544
	雌				
とまこまい広域	去勢	99	773,646	1.201	2,245
	雌	61	693,328	1.070	2,140
胆振管内	去勢	203	788,665	1.169	2,346
	雌	114	680,009	1.041	2,136
市場計	去勢	1,046	778,133	1.132	2,373
	雌	651	670,266	1.017	2,174